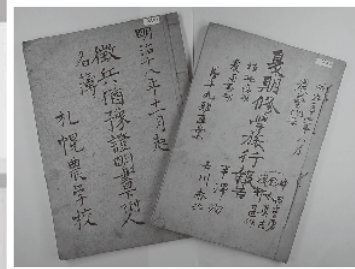


大学文書館へ 行こう

第3回 「図書館と博物館と文書館」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



【文書館らしい資料】
札幌農学校の公文書（大学文書館蔵）

所蔵品の利用方法

所蔵品の利用方法という観点から見ると、附属図書館では、蔵書を閲覧できます。図書は基本的に多数出版・刊行されるので、利用者は、附属図書館が利用しやすいように分類配架した蔵書を開架方式などで自由に手に取り、館外に借り出すこともできます。附属図書館は図書の利用業務を通じ、大学の研究・教育活動を支える役割を果たしています。

総合博物館では、展示されている収蔵品を閲覧できます。展示で収蔵品のすべてを見られるわけではありませんが、厳選された収蔵品をストーリー性のある構成で陳列し詳細な解説を付して、北海道大学が取り組んできた学術研究を分かりやすく紹介しています。特に、大学外の人々に対し、大学が何をしているところかを示す重要な役割を担っていると言えます。

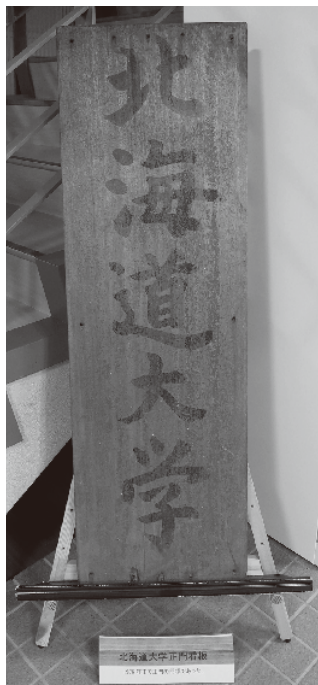
大学文書館では、附属図書館と同じ閲覧という形で、原則として個人情報等を除くすべての所蔵資料を利用できます。ただし、文書資料は図書と異なりオリジナル一点物なので、開架・出納方式により、館外へ借り出しはできません。そして、特に



【図書館っぽい資料】
小説家鈴木三重吉が東新（後に北海道帝国大学予科教授）に献呈した著書『千代紙』、鈴木と東は夏目漱石門下生（大学文書館蔵）

知的資源の保存・活用

公文書資料の利用に関して、大学文書館は法令上大きな役割を担っています。国立大学は国からの予算配分によって運営を行なっています。運営資金を国民の納税に依っているため、国立大学は、その諸活動の記録である公文書を国民共有の財産として、国民がいつでも主体的に利用できるように管理しておかなければなりません。それが、公文書管理と情報公開の制度であると言えます。



【博物館っぽい資料】
北海道大学正門看板（大学文書館蔵）

よく受ける質問

図書館(library)と博物館(museum)と文書館(archives)はどう違うのか。北海道大学にも附属図書館、総合博物館、大学文書館が揃っていますが、明確な回答は難しい質問です。それぞれの所蔵品の違いが一番イメージしやすいかも知れません。図書館は図書、博物館は物品資料、文書館は文書資料を中心に所蔵しています。北海道大学の場合、附属図書館は、北海道大学の教職員・学生が研究・教育活動に必要とする図書を所蔵しています。総合博物館は、北海道大学において学術研究のために収集した物品資料を所蔵しています。具体的には動

植物・古生物・鉱物・考古学の標本類などです。大学文書館は、北海道大学の歴史に関する文書資料を所蔵しています。公文書資料や、大学関係者の自筆ノート・原稿・書簡などです。とは言うっても、総合博物館も大学文書館も図書を所蔵しています。附属図書館にはアイヌ民族の風俗を描いた絵画や古地図類など、大学文書館にも大学の備品や教職員・学生が製作した美術品などの物品資料があります。また、総合博物館は学術調査の記録など、附属図書館は開拓使外国人書簡などの文書資料も所蔵しています。所蔵品だけでは違いは明確になりません。